



・西南学院大学・

図書館報

No. 85

昭和55年11月1日発行

〒814

福岡市西区西新6丁目

西南学院大学図書館

古典雑感

商学部教授 岡 本 幸 雄

書物のなかに古典といわれる名著は沢山ある。

古典の語義を『広辞苑』によってみれば、「2世紀以来、古代ギリシャ及びローマの代表的著述、転じて、学芸上の大家の著述や巨匠の作品などで、後人の模範・典型となるべき価値の定まったもの」とある。書物において古典と称される場合、それが単に古いだけではなく、現在もお人々や社会に影響を与え、学問的価値をもち続けているものを指していよう。

社会科学の分野で、とくに、経済学に基礎をおきながら経営史を勉強している私にとって、機会あるごとに目を通す数ある文献のなかに、たとえば、アダム・スミス (Adam Smith, 1723~'90年)の『国富論』(The Wealth of Nations, 1776年)といった書物がある。これなどは既に2世紀余の歳月を経過しているとはいえ、経済学を勉強するうえで、なお現代的意義を保持している。この意味において、まさしく古典というにふさわしい書物の一つである。

ところで、古典を読むに当って、一般的に、まず心掛けねばならない点は、その古典が世に出された時代の社会、経済、政治、思想などの背景に関心を払うことの大切さである。こうした時代状況への歴史的認識をもつことによって、古典のより正しい理解に接近することができよう。

この点を、上記に例示の『国富論』についてみるならば、同書は、個々人の自由主義経済活動を基調に、富の本質を生活必需品におき、その源泉

を労働の生産性(分業)に求め体系づけられている。こうしたスミスの経済理論の展開を正しく理解するためには、少なくとも彼が活躍した18世紀中葉の、イギリス及び世界の動向を知ることが必要となる。スミスの時代のイギリスは、分業に基づく協業に立つマニュファクチュアの著しい進展と産業革命の開始(1760年代)という経済・産業の発展段階にあり、あるいは、いわゆる7年戦争からアメリカ独立戦争(1776年独立)にみられた重商主義の国際的危機が存在していた。このような国内外の経済・政治動向のもとで、彼スミスの学問的関心が、とくに、国家による国民経済への強力な保護・統制政策と、商業・貿易、植民地政策をとおしての富(即ち貨幣)の獲得という重商主義(Mercantilism)の批判に向っていったのである。彼は保護主義に対する個々人の自由主義を主張し、富の源泉を流通過程(貿易差額)ではなく、生産に求めて理論を展開していった。『国富論』は、近代市民社会の経済学分析の書、といわれているが、別な表現を用いれば、重商主義批判の体系書、ともいうことができる。この意味において、重商主義の何たるかを知ること、極めて重要である。

古典の理解に接近する一つの方法として、事例的にスミスの古典をとりあげてきた。ここではその古典のもつ現代的意義に関して触れえなかったが、まず何よりも古典出版の時代状況を認識することの重要性を強調し筆を擱く。(経営史)

文学部4年 小川朋子

日一日と秋めくこのごろ。空気がさらっとして気持ちいい。「読書」といえば「秋」を連想するほどこのふたつは切り離せないものになっているが、皆さんはそれが何故なのかお考えになったことがあるだろうか。実は私も今まで考えたことがなかったのだがこれを書くにあたって、ふと考えてみようと思ったのだ。どうして秋なのか……と。

ここで自分を振り返ってみれば、私はどちらかといえば読書家の方ではないが浪人をしていた頃はけっこう本を読んでいたことを想い出す。当時私は浪人という身分が苦しくはあったが充実した毎日だった。ばら色の日々といえるはずはなかったが決して灰色ではなかったのだ。その二色を混ぜ合わせたような重たいサーモンピンクだった。

秋という季節もまた、夏と冬の間にあって喜びも悲しみもひとしお強く感じられる時ではなからうか。画一化しかけている人間の心にも、もののあはれが甦ってくるのが秋なのだ。

英語の interesting は、inter（あいだ、さかい目）と est（在る）から出来た言葉だという。物事と物事とのさかい目にあるものに、私達は興味を覚えるのかもしれない。そこで人は、さかい目に何かがあるのかを探ろうとして本を手繰り寄せるのだ。ここまで言うところじつになんてつまらないもので……。

秋にはなんとなく本が読みたくなる、というのが正直なところです。



法学部1年生 島哲朗

読書の秋によせて

今年は、冷夏の影響に見舞われて、秋の訪れも早くなった。その秋の訪れと共に、僕ら新入生にとって初めての前期試験なるものを体験したわけだが、この時ほど、読書の必要性を痛感したことはなかった。

私事で恐縮ではあるが、小生の小、中、高校時代は、大して読書もせず、ただ、中間、期末試験には、一夜漬的な暗記で、けっこう点がとれていた。だが、大学でのそれは、論述試験で全く歯が立たなかったのである。理由は至極明白である。個別としての知識がなければ、個々のつながりを系統的に位置づけ結ぶ作業は、当然無理が生じてくるからだ。

読書は、この点で必要不可欠だと思う。書物には筆者の意図が、問題提起、あるいは比喩などによって、論理的組立がなされているからである。では、読書量を増やせばよいかと問われると、必ずしもそうとは限らない。

要は、読書に対する読者の姿勢である。つまり、第一に、問題意識を持つこと。そうすることによって、大局的な把握が出来るばかりでなく、主題をも、つかめるからである。第二に、そのつかんだことを、文章化することで、経験的に知識に定着させること。この作業を間断なく続ければ、読書の意義は大きいだろうと思うのである。また、一つのジャンルに傾倒することなく、幅広い読書をするのが大切であろう。

図書館会議に出席して

司書 杉野哲谷



第1回EDCセミナー

EDC (European Documentation Centers) セミナーとは、EC (European Communities) が出版した資料を持つ図書館 (EDC) 担当者とそれに関係する人々で、研修、問題点の検討、その他いろいろの情報交換や打合わせを行なうことにより、相互に有機的な連携を確保しEDC活動の向上発展に寄与するための会合であり、今回がその第1回目である。したがってこのセミナーの規約のようなものもまだ出ていない。それでそういうものの討議も含めた会合となった。

会場は、東京の駐日EC委員会代表部広報部資料室 (EDCセンター)

会期は、昭和55年9月29日 (月) ~ 30日 (火)

出席者は、各EDC関係者6名、オブザーバー3名、EDCセンター関係者4名の合計13名。

内容は、1日目： EC委員会代表部広報参事官ユベール・ドウラプラス氏の開会挨拶の後、資料室長のピーター・ユラー氏より議事進行の手順について説明があ

り、その後EDCセンターの平原氏よりEC出版物の分類・整理の方法について話しがあった。EDCセンター内見学の後、各館よりEDCの現状と問題点について報告があり、中央大学経済研究所事務室主任の程島氏よりブルッセルにおけるEC研修会の報告があった。その後、レセプションとなり、皆にぎやかにシャンパンをくみかわした。その時ECの駐日大使も出席され華やいだ内に1日目は終了した。

2日目： EDCセンターの平原氏より「EC Documentation」について説明の後、EDCセミナーの在り方、将来について討議し、次回当番館を決定後、ピーター・ユラー氏より閉会の挨拶。続いて国会図書館の石川さんの案内で、国会図書館を見学の後、解散。

以上が大体のあらましですが、第1回の会合だけに皆やる気があり活気に満ちた有意義なものでした。

なお、次回は本学で来年5月に行なう予定になっており、頑張らねばと思っています。

日本私立大学連盟主催一般研修 (図書館関係)

この研修会は今回が3回目で、10月1日 (水) より4日 (土) まで4日間にわたり熱海で行なわれた。参加者は、連盟加盟大学の図書館及び関連業務担当職員で、3年以上の経験がある30才前後の80名でした。

会の目的は「現代社会における私立大学の役割を認識し、大学の目的である教育と研究に対する図書館の役割を理解するとともに、大学図書館業務についての基本的な考え方を日常の経験の中から探究する。このことによって大学の一員としての自覚と図書館職員としての資質の向上に資すること」であり、研修課題は、「大学における図書館の在り方について」——担当業務を通して——である。

研修内容は、1日目：午後1時より開会式、オリエンテ

ーションの後、大須賀潔氏の「私立大学の課題」、田中久文氏の「学術情報流通システムと大学図書館」と2つの講演があり、終了後、グループ討議オリエンテーション。2日目：グループに分かれてそれぞれの課題を中心に討議。3日目：全体討議1 (ノースウェスタン大学図書館スライド見学) 午後グループ討議。4日目：全体討議2 (グループごとのまとめ、総括) 閉会式、昼食後解散、というものです。

私は第7グループ (逐刊、人文社会) で討議を重ねて来ましたが、担当先生の適切なリードと各私立大学図書館の中堅若手館員の出席だけに活発なものとなり、また全体討議においても同様に活発なもので、各先生方も真剣にお答え下さって、大変有意義な思い出深いものでした。

レファレンス事例(4)

参 考 係

最近利用者から寄せられた参考質問のうちから、2・3の事例を紹介して、他の利用者の参考に供したい。

〔質問1〕 ドイツの経営者・社史の伝記の所蔵先を網羅的に調べたい。

回答例： 最近各図書館でこの種の所蔵伝記目録を刊行する館が増えている。最も包括的なものが、「外国企業および企業者・経営者史総合目録（日本経営史学会創立10周年記念事業委員会編）」（雄松堂、1979）である。これは、昭和50年現在、わが国の主要16大学の図書館、研究所、文献分析センターの所蔵である。

その他個々の図書館の所蔵目録には次のようなものがある。

- 立命館大学経営学部 社史目録 1969
- 所蔵社史・企業者伝記目録 外国の部 II（神戸大学経済経営研究所 経営分析文献センター）1979

〔質問2〕 「城西経済学会誌」の13巻3号（1978.3）に横田弘之氏の「商業の論理と倫理(II)」という論文が載っているが、この執筆者横田氏の略歴と専門分野を知りたい。

回答例： この種の事柄を調べるときには、「現代日本執筆者大事典」全5巻（日外アソシエーツ、昭53—54）があるが、大学の研究者であるということがわかっている場合は、「研究者・研究課題総覧——人文・社会科学編 1979年版」（日本学術振興会、1979）が有用である。これは文部省が昭和52年に、各大学所属の研究者全てに調査依頼して、日本学術振興会が発行したもので、もれがないので役に立つ。

〔質問3〕 国勢調査が行なわれた最初の年と、その時の人口を知りたい。

回答例： 「大正9年国勢調査報告全国の部 第一巻」（内閣統計局）に詳細が出ているようだが、当館には所蔵しないので、「昭和25年国勢調査報告」（総理府統計局）によると、国勢調査の行なわれた最初の年は、大正9年で、その時の人口は、ちなみに、55,391,481人であった。国勢調査は大正9年に始まり、戦前は10年毎に大調査が、5年毎に簡易な調査が行なわれた。戦後、統計法

が制定されてからは、定期の調査は5年毎に行なわれるようになり、調査期日は、10月1日が選ばれた。

〔質問4〕 「経済白書」の公式名称と、内容の速報が載る雑誌名を知りたい。

回答例： —年度 年次経済報告（経済企画庁）として最初に刊行され、市販の体裁を整えたものが、「経済白書」となる。速報が載る雑誌は「エコノミスト」、「東洋経済」、「ESP」。

〔質問5〕 「カナダ学会」というものがあるのかどうか。

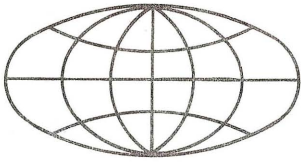
回答例： いろんな学会や協会の活動状況を調べるには「全国学協会総覧 昭和51年版」（日本学術会議、昭51）を見るとよい。しかしこのカナダ学会は出てこないの、それ以降に設立されたことが予想される。その他各種の団体名鑑等を調べたが載っていないので、カナダ大使館発行の「Bulletin Canada」No.30（昭55.5）を見ると、カナダ学会第4回年次大会が、昭55年3月末大阪で開かれたことが出ていた。また正式名称は日本カナダ学会で、事務局が東京外国語大学・小浪充研究室であることもわかった。

〔質問6〕 大宅壮一賞の歴代受賞者と受賞作品を知りたい。

回答例： 歴代全ての受賞者と受賞作品を知るには、「日本近代文学辞典」全6巻（日本近代文学館、昭53）の第6巻の主要文学賞一覧を見ればよいが、1回（昭44）から7回（昭51）までしか出ていないので、それ以降は、一年鑑の文学・文学賞の項を1年づつ調べるしかない。今年は第11回で、正式賞名は、大宅壮一ノンフィクション賞（年1回）だった。

〔質問7〕 国連が指定する1980年は～年かを知りたい。（1979年が国際児童年だった如く）

回答例： International Years and Anniversaries (E/1979/85)によると、1980年は別に指定なし。ちなみにこれによると、来年1981年は、International Year for Disabled Persons（国際障害者年）。



外国図書館シリーズ

ベルンの町と大学図書館

— ス イ ス —

文学部教授 森 泰 男

チューリヒ、バーゼルから電車によってベルンへ行くと、到着する直前に、列車はきれいな川を横切る。これがアーレ川である。この川はアルプスのふもとから流れ出し、スイスの平野部を流れて、やがてライン川に合流する。その昔、このアーレ川がU字形に蛇行する所に、ベルンの町は建てられたのである。U字の下端に橋がかかけられ城が築かれ、反対側には壁が築かれて敵の侵入に対するそなえがなされた。やがて町は発展し、壁は二度外へ移されたのである。

一番新しい壁のすぐ外にベルンの駅はつくられたが、ベルン大学はその真後ろにある。大学の前の広場は駅の屋上でもあり、きれいな公園になっている。

ベルンについてまず目に入るのがミュンスター（教会）の高い塔である。ゴシック様式の古い建物であるが、宗教改革後プロテスタントの教会となっている。この教会の塔を登ると、ベルン市内は勿論、その郊外を広く見渡すことができる。

この教会の横はテラスになっていて、眼下にアーレ川、はるかにアルプスを眺めることができる。教会の前は広場になっており、その隅にモーセの噴水がある。（因みに、ベルンには美しい噴水が沢山ある。）その横を通して少し行くと、ベルン大学の図書館がある。更に、その近くには、カジノとよばれる大きな建物があり、これは以前ベルン大学の建物だったそうである。

このことから分かるように、教会と大学と図書館と

は切っても切れない関係にあった。大学は「城外」に移ってしまったが、図書館はオールド・タウンに残り、「大学図書館兼市立図書館」としてベルン市民にサービスをしているのである。

大学の本館の他に、各学部・学科の建物が周辺に点在し、それぞれ専門の図書を備えている。したがって、学生達は大学図書館と学部図書室の両方を有効に使っているのである。

ベルンのアパートにおちつくと、私は早速助手のかたに大学図書館へ連れていって貰い、パスポートを見せて名前を登録した。ところが、40フラン（約5,500円）出せとのことだった。仕方がないかと覚悟していると、司書の人がもう一度来て、ベルン大学の教授と同じように扱うから、と40フランを免除してくれた。

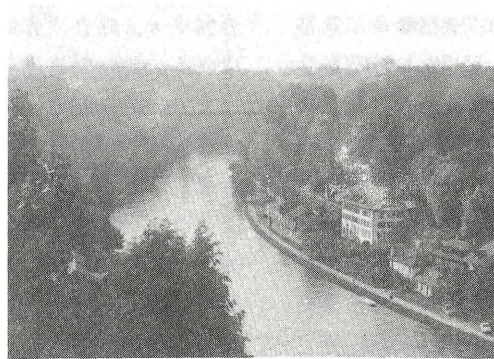
この図書館は閉架式になっており、色々の本を直接手にとって読むことはできない。まずカタログで調べ、カードに借り出

したい本の著者名、書名、分類番号を書き、更に氏名、住所、職業を記入する。それを所定のケースに入れておくと、約20分でめあての本が届くのである。

辞書、雑誌、参考書は別の階にあって、こちらは勿論開架式である。その部屋には、自習机がかなりおいてあり、学生達が真剣に勉強していた。

ベルンには他に、国立図書館があり、スイス中の図書館の蔵書目録が備えられている。それによって、ベルンにいながら、他の大学図書館から本を借り出すことができるのである。

（キリスト教学）

ベルン市内を流れるアーレ川
ベルン駅および大学は左手上方

☆ お知らせ・ニュース・NEWS ☆

＜図書館委員会＞

- 55.7.4 お盆時の臨時休館措置について
 55.10.17 55年度私大助成の事後処理について

＜研修・出張＞

- 55年度九州地区著作権講習会 (55.7.24, 25 於：
 別府市 つるみ荘)
 渡辺司書出席
- 55年度私立大学図書館協会総大会 (55.7.24～26
 於：中央大学)
 八木館長、刀根司書長、杉本課長補佐出席
- 学術雑誌総合目録 欧文編 データ記入説明会
 (55.9.5 於：大阪大学)
 今永課長補佐出席
- 55年度第1回EDCセミナー (55.9.29, 30 於：
 東京 駐日EC代表部)
 杉野司書出席
- 55年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会第1回福岡
 地区研究会 (55.9.30 於：福岡女子短期大学)
 刀根司書長、倉光係長、荒川司書出席
- 私大連盟主催55年度図書館研修 (55.10.1～4
 於：熱海)
 杉野司書出席
- 私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会
 研究会 (55.10.3 於：福岡郵便貯金会館)
 西納、荒川、渡辺司書出席

＜人事＞ 55.8.1付

- 香川 徹男 (電 算へ) 西納 正和 (教務課より)
 大塚 美子 (教務課へ) 平田 美鳥 (経理課より)
 山口 美鈴 (体育館へ) 川上由美子 (体育館より)

＜55年度私大助成内定通知＞

- 今年度、私大助成は、6点申請していましたが、先ほ
 ど文部省より通知があり、下記の1点が内定しました。
 ○Gentleman's Magazine. Vols. 201—303
 (1856～1907) (文学部・英文)

＜原稿募集＞

館報の係では、学生の皆さんの原稿を募集しています。
 掲示板をご覧の上、どしどしお寄せ下さい。

＜「学術雑誌総合目録 人文・社会科学 欧文編 1980」
 発行さる＞

学術雑誌の相互利用に資するため発行が望まれていま
 した標記の目録が、このたびようやく文部省と東京大
 学情報図書館学研究センターの尽力により発行されま
 した。内容は1978年8月現在です。当館（神学部分館
 を含む）からもデーターを提出しました。これにより
 外国雑誌の相互利用が大幅に増えることが期待されま
 す。本館にない雑誌でもこの目録で所蔵先を調べ、複
 写によって取り寄せることができますので、参考係へ
 申し込んでください。

＜学術雑誌総合目録 欧文編 補充データーの提出依頼＞

上記の総合目録、人文社会科編 (1978年8月現在) と
 自然科学編 (1978年4月現在) それぞれ、それ以降に新
 規に受入したものについてのデーター提出依頼がきま
 しました。現在シートに記入中で、大体 250点位になるよ
 うです。

告 知 板

○大学祭期間中の開館

大学祭期間中も平常通り9時から21時まで開館
 しますが、この間1階学習室は閉室します。

○冬期休暇中の開館時間および休館日

12月25日(木)	クリスマス休館
26日(金)	9:00～21:00
27日(土)	9:00～12:00
29日(月)	年末年始休館
1月5日(月)	
6日(火)	9:00～21:00
7日(水)	

※この間1階学習室は閉室

1月8日より平常通り開館

○冬期休暇長期貸出 (下記対象以外は除く)

学部学生、専攻科生

12月15日(月)～12月27日(土) 5冊以内
 大学院生

10月27日(月)～11月17日(月) 20冊以内
 いずれも返却期限は1月17日(土)です。

○卒業年次生へ

卒論用に別途3冊 (1ヶ月) 貸出中

先輩の卒論、閲覧実施中 (詳細は受付まで)